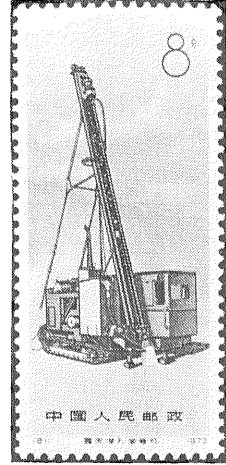
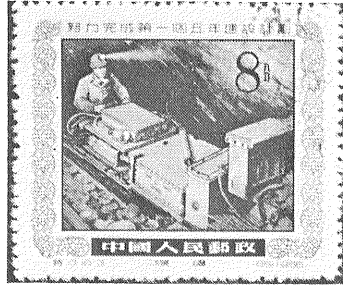


中国の石炭鉱業切手

P. Q.



中国の石炭利用は青銅時代にさか上ると言われているが、少なくとも宋の時代にはコークスが陶磁器の製造に使用されていた。現在においても石炭は中国有数の資源であることに変わりはない。

中国の石炭は全国くまなく各地から産し、その埋蔵量には諸説があった。最初は19世紀末にドイツの地質学者リヒトホーフエンが中国各地を調査し、中国の地下資源の豊富なことを報告した。彼によると山西省の埋蔵量だけでも1兆2,600億トンに上るとされた。これに刺激されて各種鉱産物の調査が進められたが、一時はリヒトホーフエンの数字をはるかに下回り、3,000億トンとされた時期もあったが、中華人民共和国が成立して以来、調査に力が注がれ、中国中央統計局によるとその推定埋蔵量は1兆5,000億トンとされている。しかしとびはなれて8-10兆トンという意見もあると言われる。一方生産量では、戦前の中国は年産3,000万トン余りに過ぎなかったが、最近では5億トンとなり、世界有数の石炭産出国となった。

中国の可採炭層は石炭系・二疊系・ジュラ系が多いが、撫順炭田の様に古第三系のものもある。

800 円 経済建設第1次8種のうち 阜新炭鉱の露天

掘 1954年5月発行

阜新炭田は東北の遼寧省にあって山西炭田に次いで中国第2の産炭地である。夾炭層はジュラ紀後期の阜新層群で4累層に分けられ、その最上部が煤炭累層である。この煤炭累層は6層の可採炭層を挟み、そのうち2層の炭丈が合わせて6-10m、ところによって70m、残る4可採炭層の炭丈はそれぞれ3-6mである。阜新層群は下部白亜系に覆われ、ところによっては更に新生界の火山岩に覆われる。

8分 第1次5ヶ年計画18種のうち 炭鉱 1955年10月発行

同時に発行されたものに、石油、地質調査などがある。

8分 工業機械4種のうち 露天さく岩機 1973年12月発行

なお1959年10月発行、10周年シリーズ第3次8種のうちに石炭がとり上げられ、1953年には炭鉱夫、変わったところで1973年に婦人炭鉱戦士などがある。